

第13期生92名卒業おめでとう

3月14日（火）、第13回卒業式が挙行されました。前生徒会長の猪俣和希さんが、卒業生代表「答辞」を行いましたので、一部抜粋して紹介します。



三年前の穏やかな春の日、大きな期待と少しの不安を抱えて中学校の正門をくぐりました。同じ制服を身にまとった同級生を見て、「中学生になった」という自覚が湧いてきたのを覚えています。それから、1月もたたないうちに休校。コロナウイルスに翻弄された中学校生活ではありましたが、かけがえのない貴重な時間を過ごすことができました。（中略）

自分の限界に挑戦した体育大会。競技はもちろん、全校生徒で取り組んだソーラン節や迫力ある応援合戦でみんなの心がつながって大成功を収めました。文化祭の3年生構成劇では、いろいろな壁にぶつかりながらも、それを乗り越え、心に残る発表ができました。コロナ禍で二度の延期を経てやっと実現した修学旅行など思い出は尽きません。（中略）

私たちが成長できたのは、他ならぬ先生方のお陰です。指示に従わず迷惑をかけたこともたくさんありましたが、どんなときでも私たちに寄り添ってくださいました。本当に感謝しています。

そして、どんなときでも1番近くで見守ってくれた家族。思春期の私たちは、家族の思いを素直に受け入れられず反発してしまうこともありましたが、でも、どんなことがあっても、そばにいてくれることがこんなにも心強く、こんなにも支えられているのだと改めて気付きました。いつも恥ずかしくて口に出せませんが、心の中では「いつもありがとう」と感謝しています。これからも心配をかけると思いますが、私たちの成長を見守ってください。

在校生の皆さん。中学校生活はあっという間です。一日一日を大切に過ごしてください。これからの垂水中央中学校を皆さんに託します。伝統を守りつつ、新しい中央中を創り上げてください。

共に過ごした三年生。今では、そばにいたことが当たり前だと思っていたみんな。日常の些細な記憶のかけらにも、共に笑い、励まし、けんかして泣き、仲直りして、そんな姿があります。みんなが自分を成長させてくれたこと、みんなが、この三年をこんなに鮮やかに彩ってくれたことを私は忘れません。92名の絆に感謝しています。これから、別々の道を歩き出しますが、これからも友達です。みんなありがとう。

これから私たちが進む道は決して平坦な道ばかりではないでしょう。困難や壁にぶつかるかもしれません。そんな時は、垂水中央中で培った経験を糧に乗り越えていきたいと思えます。そして、自分の人生を精一杯歩き続けることを約束します。最後になりましたが、垂水中央中学校のますますの発展をお祈りして、答辞といたします。



修学旅行「平和講話」

2月20日（月）～22日（水）にかけて、2年生が修学旅行に行きました。初日、原爆資料館に行き、10歳で被爆した森田博満さんに平和講話を行っていただきました。講話の後、修学旅行実行委員の2年3組俣江啓次さんが、御礼の言葉を述べましたので紹介します。

「今日は僕たちのためにお話をしていただき、ありがとうございました。今日の話聞いて、戦争や原爆の恐ろしさを改めて感じました。もし、自分が被害にあっていたらと思うと、怖くて震えが止まりませんでした。たくさんの人や建物、思い出などが一瞬で消えたことは、すごく恐ろしいもので、自分が考えているもの以上だと思えます。その時を生きていた人たちの思いは、絶対に忘れてはいけないものです。被害を受けた人たちが必死に生きようとする、原爆の恐ろしさや戦争はいけないものだということを伝える人たちは、本当にすごい人たちだと思いました。死んでしまった人たちや、被爆した人たちの意思をしっかり受け止め、命を大切にしていきたいです。そして、今、僕たちが当たり前前に生活できることに感謝して、毎日を大切に生きていきたいと思えました。今日は、本当にありがとうございました。」



表彰

第61回ひな祭り書道展									
遊墨賞	3年2組	井之上	沙弥	鹿屋市文化協会賞	3年3組	井之上	史歩		
漕上賞	3年2組	下園	愛里						
明るい選挙啓発書道コンクール									
推進協議会会長賞	1年1組	瀬脇	莉乃						
特選	3年2組	大山	美海	3年2組	井之上沙弥	3年3組	井之上	史歩	
垂水市読書感想文コンクール									
最優秀賞	2年2組	迫田	杏美						
優秀賞	1年1組	野間	杏奈	2年1組	前田桃嘉	3年3組	村下智基		